

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	多様性を尊重し、自他共に大切さを認め合う児童の育成 ～相手意識をもち、共感的に関わる体験活動を通して～
----------	--

○調査研究のテーマを設定した目的

大きく変動する社会情勢の中で、新しい生活様式やコミュニケーション手段が急速に普及し、インターネットで世界中の人々ともつながることもできるようになった。視野を広げ世界を見つめ、多種多様な人と共に生きるために求められるものは一人一人の児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解することである。人権を理解することで「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れ、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながっていくと考える。

本校は、東国三社に数えられる古社である鹿島神宮が近くにあり、全国からの参拝者でにぎわう立地にある。また、プロサッカークラブ鹿島アントラーズのホームタウンでもあり、活躍するたくさんの外国人選手を地域をあげて応援している。そのような環境から、本校の児童は外国人から話しかけられると物怖じせず返答ができたり、自分から積極的にコミュニケーションをとろうとしたりする児童が多い。しかし、相手がどのように感じているのかという相手意識をもって話をすることは課題がある。また、特別な教育的配慮を必要とする児童も多く在籍している。交友関係のトラブルを自ら修復したり、新しい交友関係を構築したりすることを苦手とする児童も多く、他人からの言葉に傷ついたり、内向的になってしまったりとして、自分の居場所を見出すことが難しいと感じてしまうこともある。人としての尊厳と価値が尊重されることを要求して当然であるということを一人一人が理解し、行動に移すことが大切である。地域の中の高齢者、障害のある人々、外国人など様々な人々と関わり、その多様性を尊重することや、相手を大切にすると同時に自分も大切にすることができる児童の育成を目指し、研究のテーマを設定した。

○調査研究の概要

相手の立場に立ち、必要なことやその人の考えや気持ちが分かるような想像力、共感的に理解する力、多様な人々とわかり合うためのコミュニケーション能力、また、建設的な手法により、人間関係を調整する能力及び自他の要求をともに満たせる解決方法を見だし、それを実現させる能力や技能を育むための工夫・改善を調査研究する。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

鹿嶋市立鹿島小学校

○これまでの研究指定等の状況

特になし

○学級数

26 学級（うち特別支援学級：7 学級）

○児童生徒数(R6.2.14)

全児童数：614 人

○URL

<http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/>

○指定理由

本校では、オリンピック・パラリンピックムーブメント事業においてブラインドサッカーを体験することで障害者への理解を深める体験や、学校連携事業として、オリンピックサッカー観戦を通して、外国人選手を応援するために自分たちにできることを考え実践するという体験をしてきた。アフターオリンピック事業では、ニュージーランドのALTとオンラインでつながり相手意識をもつ必要性を感じることができた。このような、障害の有無や国の違い、文化の違いも越え、相手を尊重し大切に思う気持ちを伝える工夫をすることでつながることができるという経験をさらに推進し、人権尊重の精神の涵養を目指したいと考えた。

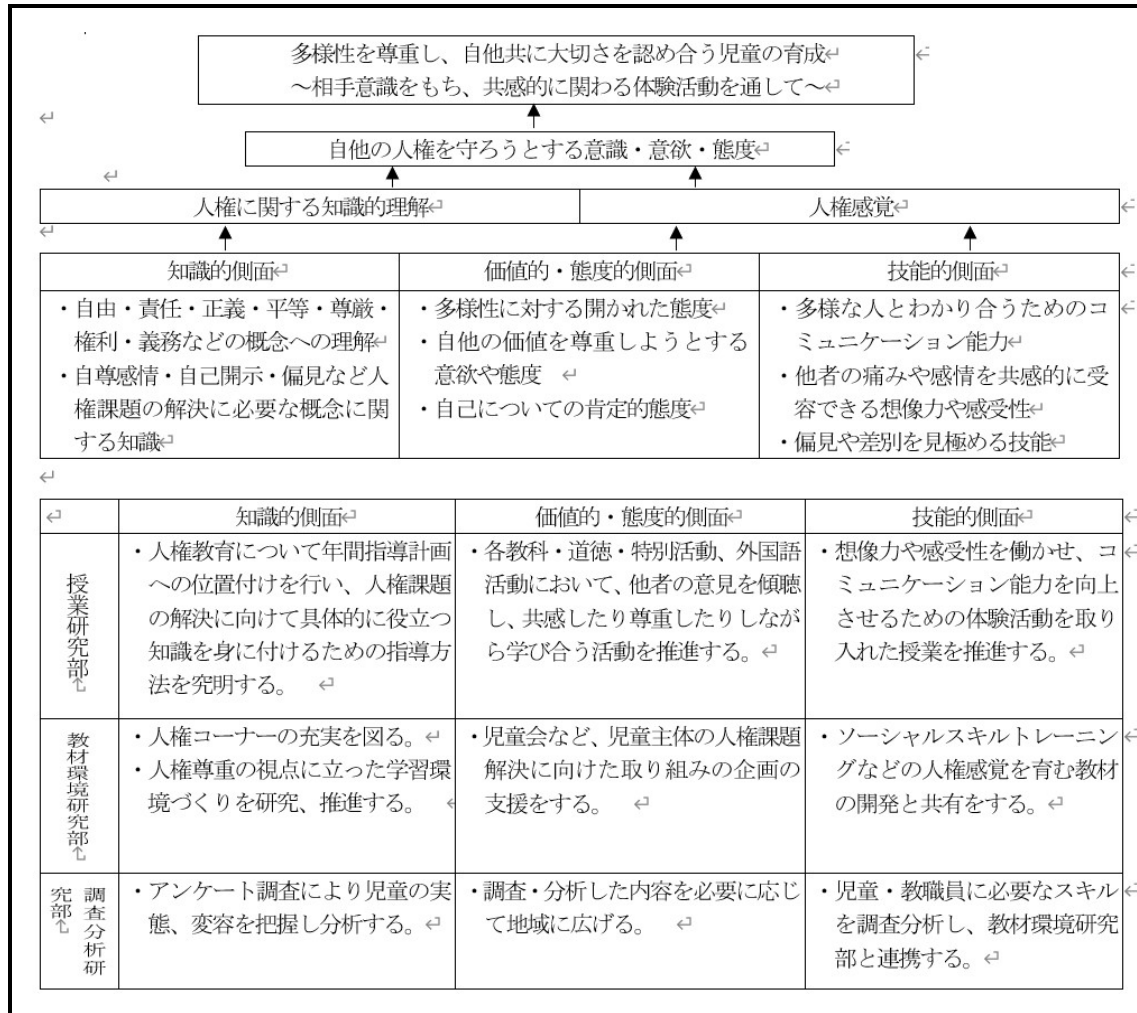
○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

①子供	
②女性	
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	◎
⑧-1 HIV 感染者等	
⑧-2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他 ()	

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容



○実施方法

	高齢者 1・2学年「生活科」	障害者 4学年「総合的な学習の時間」	外国人 6学年「学級活動」	インターネットによる人権教育 1～6学年「道徳・学級活動」
期待する成果・目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活を支えている地域の高齢者の存在に気づき、手紙で感謝の気持ちを伝えることができる。 高齢者に対する優しい気持ちを持ち、思いやりの心をもって親切にする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害に伴う心身の変化や生活について、実際に体験することを通して知り、障害者への思いやりの気持ちをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化や生活習慣における多様性を受け入れ、自分の大切さとともに他人の大切さを認める行動目標を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットやSNSによるトラブルの事例についての動画を視聴し話し合うことで、個人情報の取扱いや相手の気持ちを考えた情報発信などの情報モラルの意識を高める。
手段・実施方法	<ul style="list-style-type: none"> 敬老の日に祖父母に手紙を作成して渡す。 自警団の方々に感謝の気持ちを伝えるミニ集会を催し、お礼のメッセージカードをプレゼントする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な障害や身の回りにあるバリアフリーについて詳しく調べる。 点字・手話・車いす・アイマスク体験から障害者に対する理解を深める。 これまでの学習を交流するとともに、障害者が過ごしやすい社会にしているために、自分ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 中国の小学生、市内高等学校の留学生とそれぞれ交流を行う。 日本を訪れた外国人が困っていることについて、インタビューを基に話し合い、解決策を考える。 困り感を解決するための提案を留学生に向けて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画を視聴（低学年・中学年・高学年ごと）し、感じたことやインターネット活用時の注意点について考える。 SNS上でのコミュニケーションの取り方について交流し、よりよい人間関係の築き方について考える。
連携 他機関との	<ul style="list-style-type: none"> 自警団 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 鹿島学園高等学校留学生 	<ul style="list-style-type: none"> ICTサポーター
指導方法・指導上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 事前に保護者に協力を依頼し、祖父母が遠方に住んでいる家庭には郵送してもらうことで、児童が家庭でも高齢者と関わりをもつことができるようにした。 身近にいる高齢者の方が自分たちの生活に関わっていることを意識できるようにし、児童が高齢者の方に感謝の思いをもてるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害やバリアフリーについて調べ学習を行い、情報収集することで知識を深めた。また、障害者の疑似体験を行い、障害者に寄り添う心をもつことができるようにした。 車いすやアイマスク体験で、階段や狭い場所、段差等の移動を実体験することで、障害者が生活の中で感じる困難さに共感できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に外国人と交流する機会を設定し、直接困り感を聞くことで、児童が外国人の人権についてより深く考えることができるようにした。 自分の考えと比較しながら聞くとともに、他の意見を否定せず、受容する言葉かけや反応ができるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 非対面と対面のコミュニケーションの違いを踏まえ、人権の視点を意識しながら考えるようにした。 インターネットやSNSによるトラブルの具体的な場面を想定して、どのようにやり取りをするとよいか話し合うようにした。

4. 検証・評価・改善・普及

【検証・評価方法】

① 検証方法

- ・人権アンケートや学習状況調査の「児童質問紙」から、人権に対する意識の変容を検証する。
- ・学習後の児童の振り返りシートから変容を検証する。

② 評価内容

	高齢者	障害者	外国人	インターネットによる 人権侵害
知識的側面	「高齢者との関わりを通して、地域の高齢者が自分たちの生活を支える存在であることを理解することができる。」 (48%→92%)	「障害者の生活やそのバリアになるものについて理解することができる。」 (90%→94%)	「外国人の文化や生活習慣が日本と違うことを理解することができる。」 (88%→95%)	「インターネット上でのコミュニケーションで大切なことを理解することができる。」 (23%→94%)
態度的側面 ・ 価値的側面	「困っている相手に優しい気持ちで接しようとしている。」 (100%→100%)	「障害者の立場に立って、自分にできる行動をとり、協力していこうとしている。」 (92%→100%)	「相手が自分と違う考えを言っているとき、理解しようとしている。」 (84%→92%)	「友達が傷つく言葉を使わないようにしている。」 (93%→95%)
技能的側面	「自分たちのことを支えてくれる高齢者に感謝の気持ちを伝えることができる。」 (88%→96%)	「障害の有無に関係なく、相手の立場に立って優しい行動をとることができる。」 (88%→92%)	「相手の考えを大切にしながら自他の大切さを認める行動をとることができる。」 (71%→82%)	「SNSで知らない人に自分や友達の情報を伝えないようにしている。」 (95%→99%)

<p style="text-align: center;">児童 の変容</p>	<p>開始前は、優しく接する対象が限定的（家族や友達等の身近な存在）であったが、事業後には、地域の人や高齢者等に親切にしたいと対象の範囲が広がり、相手の気持ちを考えて親切にしたいという思いを強くした。</p>	<p>障害についての学習や疑似体験を通して、障害者には想像以上の苦労があることに気付き、自分にできることを考えるとともに、行動しようとするようになった。</p>	<p>事業開始前は、外国人とのコミュニケーションに不安を感じていた児童もいたが、交流を重ねるにつれて身振り手振りを交えながら伝えたり、理解しようとしたりするようになった。</p>	<p>事業開始時は漠然とした回答であったが、終了後には、「時間をかけて返信する」、「言葉を選ぶ」等の相手意識をもった回答が増加し、情報モラルについての理解が深まった。</p>
---	--	--	---	---

③ 改善方法

- ・自他の大切さに気付き、尊重されるべきであるという考えを定着させるためにも、知的理解を深める機会を計画的に設定する。
- ・縦割り班活動や委員会活動、児童会活動の充実を図り、人権を意識した活動を児童主体で計画・実行できるよう、発表の場を計画的に設ける。
- ・自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりすることに難しさを感じ、行動に移すことができないと感じている児童が見られるため、ソーシャルスキルトレーニングの充実を図り、コミュニケーションスキルの向上を図る。
- ・教職員の人権への知的理解や人権感覚を高める研修の充実を図り、「人権が尊重される授業づくりの視点例（第3次とりまとめ）」を定期的に活用することで、誰もが安心して学習できる環境づくりに努める。
- ・学校運営協議会など地域の人的・物的資源の積極的活用により、地域住民や保護者と相互に人権尊重の啓発を図る。

④ 普及方法

- ・学校便りや学校ホームページを通して、随時広報に努める。
- ・各学年の取組を児童朝会やお昼の放送等で発表する。
- ・地域公開において、学習内容を発表・掲示する。

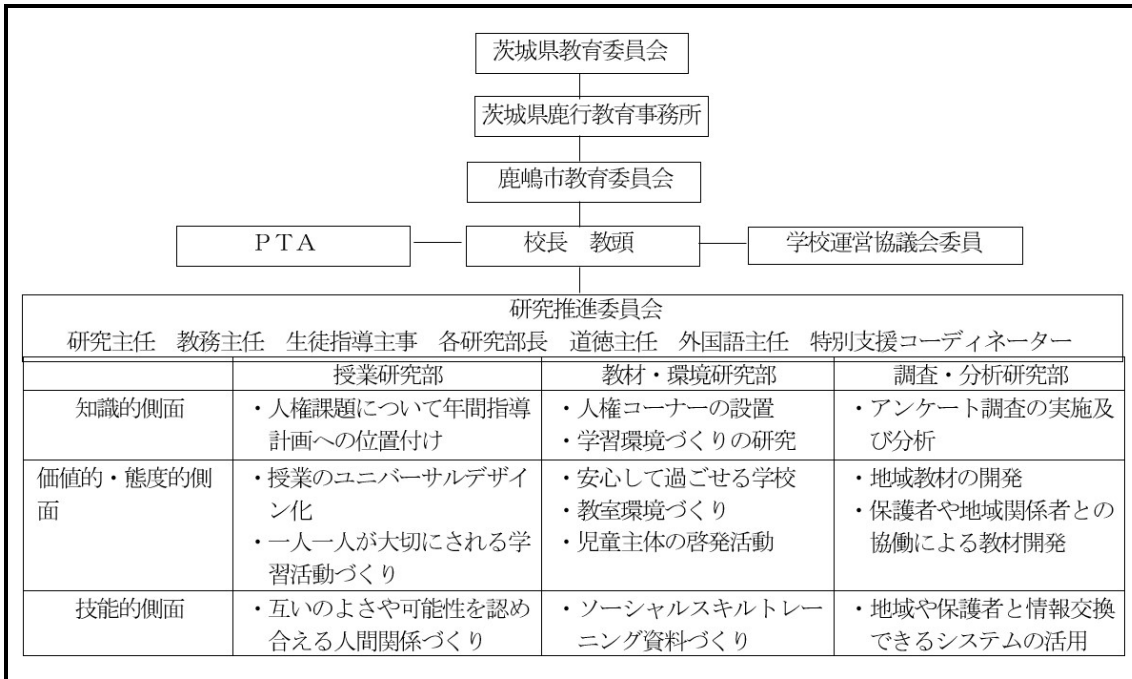
5. 人権教育に係る年間指導計画

令和5年度 鹿嶋市立鹿島小学校 人権教育 研修・活動計画

月	研 修 内 容	備考（参考資料）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育指導方針の内容伝達 ・ 鹿島小学校のきまりの検討と確認 ・ 校内研究推進会議 ・ 第1回全体研修会 本年度の活動計画と研修計画の立案 ・ 生徒指導部研修会「見守ってあげよう」 特別な配慮を要する児童について全職員での共通理解 ・ 新入生歓迎集会・PTA 総会・授業参観 ・ いじめアンケートの実施（各月1回実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育指導方針 ・ 人権教育視聴教材映画 「ホーム」 ・ 家庭との連携及び啓発
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回全体研修会 人権に関する講師指導 人権感覚チェックシート ・ 各研究部研修会 指導案作成、環境整備、人権アンケート作成 ・ 教育相談（全児童対象） ・ ありがとうメッセージ作成・校内放送（各月1回実施） ・ ソーシャルスキルトレーニング（年7回実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師による講話 ・ 人権教育指導資料 （第44集）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各研究部研修会 指導案検討、環境整備、人権アンケート分析 ・ 生徒指導研修会（校内支援委員会） 特別な支援を要する児童の理解と具体的な支援方法について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年の発達段階を考えた 授業内容
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各研究部研修会 指導案検討、環境整備、資料作成 ・ 情報モラル学習 ※ICTの活用 ・ 校内授業研究 各教科・道徳（7月以降毎月実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法務省 人権問題啓発資料 「あなたは大丈夫？ インターネットと人権」
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回全体研修会 指導案検討、環境整備、資料作成 研究発表会準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法務省 人権問題啓発動画 「『誰か』のことじゃない」
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権メッセージの応募 ・ 人権に関する標語・作文の応募 ・ 第4回全体研修会 研究発表会準備 	

<p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>1</p> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流 ・鹿島学園留学生との交流 ・第5回全体研修会 研究発表会リハーサル ・鹿島学園留学生との交流 ・福祉体験（車いす・点字・手話） ・ALTとの交流（市内・外）※オンラインによる実施 ・生徒指導研修会（校内支援委員会） 特別に支援が必要な児童に対する理解と支援方法について ・教育相談 ・研究発表会 ※ICTの活用 ・第6回全体研修会 研究発表会まとめ ・地域公開日（地域の方との交流） ・人権集会 人権に関する意見交換、標語の作成 ・拉致被害についてのビデオ視聴 ・情報モラル学習 ※ICTの活用 ・各研究研修会 研究の成果と課題 ・第7回全体研修会 校内授業研究の反省と今後の課題 ・高齢者との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との連携 ・鹿島学園（市内私立高校）との連携 ・鹿島学園との連携 ・社会福祉協議会との連携 ・ALTとの連携 ・家庭との連携及び啓発 ・地域、家庭との連携及び啓発 ・人権教育視聴教材（日本人拉致問題啓発）アニメ「めぐみ」 ・地域の方との連携
---	--	---

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料

